

■芽室町農業振興計画策定検討会議 第3回担い手対策部会

日時：令和2年3月23日（月）14:00～15:30

場所：役場庁舎地下第2・3会議室

【出席者】

山上部会長、浅野副部会長、相川部会員、高野部会員、平林部会員

【欠席者】

竹腰部会員、小川部会員、茅野部会員

【事務局】

佐々木課長、佐々木補佐、水野主事（農林係）、近藤主事（農林係）、上本主事（畜産係）、村上係長（農委農地振興係）

検討項目1の説明を終えて

相川部会員

息子がいるが、よく聞く話だと、出会いの機会を作っても本人たちの意思がないと意味がない。本人たちの意識改革がないといけない。農業委員会の婚活パーティーでも女性の申し込みはあるが、男性の申し込みは少ない。参加する男性も固定化されている。

浅野副部会長

農業委員会で企画を練るが、参加が少ない。意識改革は個々でやるしかない。親にも責任あると感じる。

相川部会員

自分たちの世代は、どうやって農業で生きていくかを常に考えていた。今世代はそういう感覚が少ない。もっと田舎で厳しい地域では自分が後を継いで生き残っているという意思が強い。帯広市近郊の市町は意欲が低いと感じる。

浅野副部会長

婚期を迎えているが、今は生活ができているから、未婚同士で群れてしまう。

平林部会員

積極的な人は自分で行動している。時代もあると思う。周りから積極的に強く言われることも無くなってきた。積極的な人と消極的な人で2分化されている。

相川部会員

女性の方が積極的。適齢期になると出産の関係もあるので積極的に結婚しようという思いが強い。

高野部会員

時代と環境が変わってきている。多種多様な出会いの場が必要。今回はクッキング等の共同作業を提案した。若い世代でグループを作って、自分達も楽しむイベントを企画し実施するのが良いと思う。

また、親が手を出しすぎるのも良くないと感じる。親だとどうしても手助けしたくなるが、それだと自立できないと感じる。

浅野副部長

今は外に出歩かない人が多いと思う。家の中で趣味が完結してしまう。

高野部会員

家の中で集まって遊んでしまう。

相川部会員

昔は周りに同年代の子供がいて、みんなで試行錯誤しながら交流した。

山上部会長

マッチングソフトを作るのも面白いと思う。

浅野副部長

農業の将来像考えたら、後継者だけじゃなく、親にも状態を伝えなければいけない。昔は芽室町内に憩いの場所（青少年ホーム）があり、異業種交流ができた。そういう場所があればいいと思う。また、J A青年部に丸投げするのではなく、後継者対策等のメンバーに入ってもらい一緒に考えるのも良い。

山上部会長

農業青年大学（農家育ちの娘と後継者所属）のような出会いの場があった。昔の青少年ホームのような場所も必要なのかもしれない。

相川部会員

農家に対する回りの評価は30～40年前よりも間違いなく高い。本人さえその気になれば、昔よりも結婚しやすい。相手側も中小企業に嫁がせるよりも農家に嫁がせた方がいいと考えている人も多い。

課題 1、2 の説明を終えて

浅野副部長

芽室町に関しては、女性農業者は就農前に連れて帰ってくるか、就農後に自分の力でパートナーを選んでいる方が多い。芽室町は現状を考えると直近の課題では無いと思う。

山上部長

婿が嫁いでくる事例も多いと思う。

浅野副部長

嫁いでくる方もしっかりしている方が多い。

女性農業者は男性より心配しなくてよいと思う。

山上部長

女性だらけだからと営農をあきらめる方も多いが、娘だけでも続けられるなら諦める必要もないと思う。

高野部会員

娘が後継者で男性が農家に嫁いでくるときに、男性女性両方の新規就農者向けの講習会などはあるのか？

近藤主事

町独自では無いが、農業大学校では各種研修や講習会を行っている。町でも今後検討していく必要があると感じている。

平林部会員

知り合いにも女性農業者がいるが、トラクターを操作している。今後はGPSが普及していくと、運転ももっと簡単になる。GPS導入の助成などがあると良い。いくつかの選択肢があればいいと思う。

相川部会員

自分の家の近くにも婿として就農した方がいる。最初は苦労していたが、徐々に慣れてきており、現在は普通に営農できている。農業をやりたいと思う人間はいると思う。

ただ、親も子供が女性だけだと外に嫁がせて、年を取った後に離農して普通に生活したいと考える方もいる。

北海道の有名な牛屋では、婿取りが多い。娘がいたら優秀な婿を選択できるケースもある。

高野部会員

J Aなど、近くに研修する機会があればいいと思う。特に女性は子育てなどあるので遠くに行くのは大変だと思う。

浅野副部長

農青協は今もあるのか？昔は女性も多くいたが現在はどうか。

平林部会員

現在女性はいない。

浅野副部長

昔のようにそのような組織に女性が入ると現状も変わると思う。

山上部会長

農家だけではなく違う業種の人も入れる大きな組織があればいいと思う。

浅野副部長

農家から農家へ嫁ぐケースもあるのだろうか。

山上部会長

あると思う。

相川部会員

市町村をまたいでだが、畜産農家の場合、酪農ヘルパーをしている女性が農家に嫁ぐ事例はある。

浅野副部長

自然にそのような環境が出来ている。

相川部会員

地元には少ないのかもしれないが、牛などの動物が好きな人が畜産農家で働いているから、嫁ぎ先も畜産農家というケースも多いと思う。

山上部会長

畜大生はどうだろうか。

相川部会員

地元に戻って就職するか、十勝管内の J A に就職するというケースはよく聞く。

佐々木課長

相川部会員からも話があったが、意識改革は大事なこと。事務局としては、どうやって仕組みや環境を作るかが大事。今出た意見や手法を計画に取り入れ、今までと違った環境づくり生かしていきたい。

検討項目 2 の説明を終えて

高野部会員

質問だが、住宅確保が出来れば農業研修を実施したいという問い合わせはあるのか？

近藤主事

住宅の問い合わせはほとんど無いが、研修の相談を受けるときに、十勝管内よりも管外や道外の問い合わせがほとんどである。町として住宅の用意ができれば、金銭的なサポートができるのではないかと考えている。また、去年 2 人おためしツアーに参加し、そのうち一人が芽室で農業を行いたいと言っていた。雇用促進住宅を用意するのは役場の仕事のうち。

相川部会員

生活費を稼ぐため、条件の悪い土地を買い、開墾し、ヘルパーを行っている新規就農希望者がいる。

浅野副部長

芽室町は農家の規模拡大意識が強く、優良農地が出てこない状態。JA も含め、新規就農者へのバックアップする覚悟があるのかが問題。

相川部会員

畑作農家は難しい。酪農会は上士幌等後継者いないものを集め法人立ち上げ。(JA が) 後継者がいなくても経営できる仕組みを作っている。

山上部会長

町独自ではバックアップ難しいので、国の制度資金を使うしかないのでは

相川部会員

JA は技術指導はしてくれるが、経済支援は難しいのでは。

平林部会員

芽室町では希望する人はいるが、現状難しい。

相川部会員

ある程度受け入れしていかなないと、今後大変なのでは。

高野部会員

新規就農について、今後農地が出てくると思うが、今どのような対策をしていいか思いつかない。今、芽室で新規就農している人たちの事例集をつくってみては。家に実習で来ている人に相談持ちかけられたとしたら、事例集で提案できる。

新規就農者は農家にとっても刺激になり、町づくりにもつながる。

山上部会長

安易に新規就農者をうけて、好きな野菜をつくり、病虫害が蔓延しても困る。受け入れ体制として町、JA、農業委員会関係機関が連携しないといけない

相川部会員

地域によっても受け入れ体制がちがう。快く受け入れてくれる地域もあれば、一筋縄ではない地域もある。

佐々木課長

新規就農者に対しては町も責任をとらなければいけない。農地が出てくるかは地域の協力も必要。いきなり経営者になるのではなく、従業員として地域に溶け込み、就農につなげていければと思う。

浅野副部会長

前回の議論でも出たが、農福連携として、障がいのある方が農作業していく取り組みも良い。

検討項目 3 労働力確保対策について

追加議論について特になし

検討項目 4 農地の移動・集積について

浅野副部会長

農業委員の業務であり、遊休農地ないかどうかパトロールを実施中。芽室町は条件がいい中、遊休農地があっても良い土地ではない。良い農地は地元で使ってしまう。

相川部会員

上美生では土地を譲ってもらえず、断念した人もいる。芽室では2町程の土地で営農していたが、規模拡大で富良野にて16町の土地で営農している人もいる。しかし、農地は山奥で良い土地ではない。

高野部会員

遊休農地をすべて農家で使うのではなく、農地を別の使い方をしてもいいのでは。木を植える等。違った分野で社会貢献してもいいのでは。

浅野副部長

芽室は遊休農地殆どない。他町村の事例を調べてみてはどうか。

審議を終了。

4 その他 計画の記載項目について資料2を元に事務局から説明。→意見なし。

5 連絡事項 (1)次回部会開催予定について→担い手部会委員会までの追加開催なし。

(2)農業振興計画検討委員会→部会長了承。

6 閉会